

海外安全対策情報（平成25年度第3四半期）

1 社会・治安情勢

（1）10月、APEC首脳会議が開催されるのに併せて、ングラ・ライ国際空港の新国際線ターミナルがオープンしました。しかし、レストランや店舗等の付随施設については、未完成のままで、関連工事が今後しばらく進められる見通しです。

（2）12月、世界貿易機関（WTO）閣僚会議がバリ島で開催されました。この期間中、デンパサール市中心部において、WTOに異議を唱える中小規模の集会・デモが断続的に行われましたが、大きな混乱は発生しませんでした。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）12月、バリ州警察は、州内における2013年中の犯罪認知件数を発表しました。総件数は7,785件で、前年の8,100件から約4パーセント減となっています。他方で、車両（主にオートバイ）の盗難が、前年の350件から541件に急増している由です。

（2）邦人被害事案

10月中旬と11月上旬の2件、南デンパサール地区の在留邦人宅において、相当額の現金やパソコン等の貴重品が盗まれる空き巣被害が発生しました。

11月上旬、クタ地区にある在留邦人宅において、プロパンのガス漏れが原因と思われる爆発により、住人の邦人1名が大やけどを負い病院に搬送されましたが、その後亡くなられる痛ましい事件が発生しました。

12月中旬、クタ地区のレストランにおいて、邦人観光客が椅子の下に置いてあったバックを盗まれる置き引き被害が発生しました。

12月中、観光地にあるショッピングモール内やスーパーマーケット付近において、邦人観光客がスリやひったくりに遭う被害が複数発生しました。

12月中、在留邦人がクレジットカードの情報をいずれかの場所において、盗みとられるスキミング被害に遭い、デンパサール及びサヌール地区において現金が引き出される被害が発生しました。

（3）邦人以外の被害事例

10月上旬、ジンバラン地区の高級住宅街に暴漢が押し入り、住人のロシア人女性の頭にセメント資材をぶつけて重傷を負わせ、その後、暴行を行う凶悪事件が発生しました。

12月上旬、クタ地区にある住宅に強盗が押し入り、住人のベルギー人夫婦をナイフで脅しましたが、被害者が大声で叫んだところ、犯人は逃走するという強盗未遂事件が発生しました。

その他、観光地を中心に、外国人観光客を狙ったと思われるスリやひったくり事件が散発的に発生しました。

3 テロ・爆弾事件発生状況

APEC首脳会議やWTO閣僚会議など、多くの要人が訪れるイベントがバリ島で開催されたことや、クリスマス及び新年におけるテロ情報もあり、バリ州以外からのテロリストの侵入や爆弾の持ち込みに対する警戒が強化されましたが、テロ等に関する事件は発生しませんでした。なお、10月4日、タバナン県において、手投げ弾と思われる爆弾が爆発して2人の子供が死傷する事案がありました。同事案は、不発弾を見つけて持ち帰った子供による事故と見られ、警察当局によれば、テロとは無関係としています。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

誘拐・脅迫事件は発生していません。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

日系企業の安全に関わる問題は発生していません。

以上